

**CASBEE-京都-建築(新築)2018年版**  
 (仮称)十条事務所 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年  
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
<b>1 音環境</b>								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1.3 吸音								
<b>2 温熱環境</b>								
2.1 室温制御								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
<b>3 光・視環境</b>								
3.1 昼光利用								
3.2 グレア対策								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
<b>4 空気質環境</b>								
4.1 発生源対策								
4.2 換気								
4.3 運用管理								
<b>Q2 サービス性能</b>								
<b>1 機能性</b>								
1.1 機能性・使いやすさ								
1.2 心理性・快適性								
1.3 維持管理								
<b>2 耐用性・信頼性</b>								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
2.2 部品・部材の耐用年数								

2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.7	0.30	-	-	3.7
3.1 空間のゆとり					4.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり			3.7m以上3.9m未満	4.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比=0.1以上、0.3未満	4.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性					4.2	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井内で仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	4.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井内で仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井内で仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井内で仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)	システム天井内で仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる	3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保			バックアップ設備のためのスペース確保	4.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		●とも、 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.6
1 建物外皮の熱負荷抑制					2.6	0.20	-	-	2.6
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)	階段室にトップライト設置	4.0	0.10	-	-	4.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.70	4.0	0.50	-	-	4.0
4 効率的運用					3.5	0.20	-	-	3.5
集合住宅以外の評価					3.5	1.00	-	-	
4.1	モニタリング			エネルギーの消費の内訳を把握分析	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水型便器+自動水栓	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.7	0.60	-	-	3.7
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	磁器質タイル・岩綿吸音板・断熱材・再生クラッシュラン	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	躯体と仕上げが容易に分別可能、ユニット部材採用	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					4.3	0.20	-	-	4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				4項目以上採用	5.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					4.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			ODP=0かつGWP=1以下	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮				ライフサイクルCO2排出率 = 78%	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止				オール電化	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制			適切な量の駐車・駐車場の設置、荷捌用車両の駐車施設の確保	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.3	0.33	-	-	3.3
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	1.00	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害がガイドラインのチェックリストを過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)	外壁三方にアルミルーバー設置	4.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる